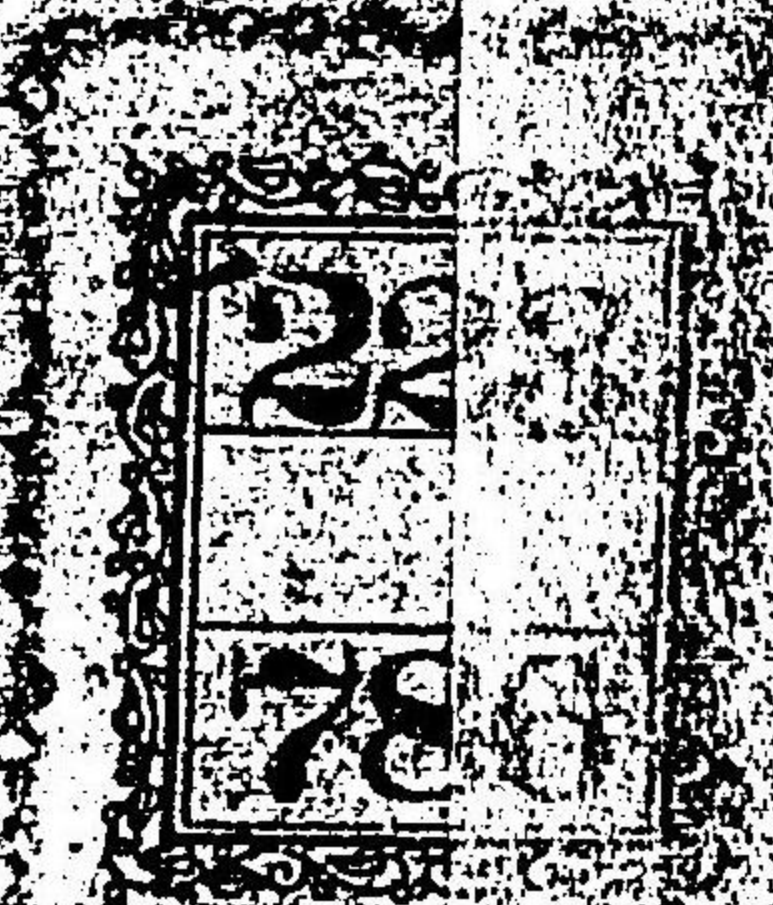


釋宗演禪師評

海老名彈正師評  
空水著

# 禪海の一波

東京 文明堂發兌



海老名正師評

空海老名彈正師評  
水著

# 禪海の一波

22  
78

東京 文明堂發兌

序

本書は、禪宗の見識をもつて、基督教の眞髓を摘發したるもの也。

明治乙巳

著者識

明治

38 7 31

内窓

序

1  
一波又起一波。百則公案。有波瀾。有頓挫。而  
有畝趣。若非依空水子之鐵腕。安得如是自  
由操縱個禪棹子哉。唯是中間有一字不穩  
底。速道々々。

楞伽謾批。

是は、精神的耶佛の對照近頃の珍本、道味も中々深い

海老名彈正評

眞橋

現今世界に於ける宗教中、實に一般的、社會的、世界的にして、勢力最も盛なるものは基督教をもつて第一となす。然れども惜むべし、其奥の院はお留守なり。又眞に完全圓滿此上なき奥の院を有するは世界に宗教多しと雖も臨濟宗の右に

眞橋

出るものなし。然れども悲むべし、寧ろ個人的にして一般的にあらず。

於此乎、前者より後者へ渡り通ふ橋の必要あり、即ち唯一の眞橋

『禪海之一波』

を書きし所以也。

數年の後、自由の新天地、北米合衆國に住しつゝ、英文をもつて、最も露骨に聊か

も憚る處なく、思ふまゝの文字を用ゐ、自由に解釋して完全無缺の大鐵橋を造り、兩者の交通を一層安全ならしめんとす。

宗教は、人の爲めに設けられたる者にして、人は、宗教の爲めに設けられたるものにあらず。喝。

明治乙巳

空 水

禪海之一波

第一則

空 水 著

○聖靈に感じて孕む。

男女の交に、靈的と情的とあり、靈的  
交通は眞人を生ず。

第二則

○主の使者、かれが夢に現はる。  
本性發現。

第三則

○神、われらと偕に在り。  
人と神、二あるにあらず、  
しかも、人は人、神は神。



第四則

○天國は近けり、悔改めよ。  
天國遠きにあらず、我に在り、回向一  
番、直に自性を證すれば、自性即無性  
也。

第五則

○悔改に符ふ果を結べよ。  
神意を實現すべし。

第六則

○天より聲あり。  
神言性語。

第七則

○聖靈に導かれ、悪魔に試みられん爲に、  
野に往けり。  
無爲にして爲す。

第八則

○四十日四十夜、食ふ事をせず。

修業

第九則

○人はパンのみにて、生きるものに非ず。  
生は靈也。

第十則

○終に悪魔、かれを離れ、天使たち來り事  
ふ。

煩惱斷滅。

菩提發起。

第十一則

○心の清き者は福なり、其人は神を見る  
ことを得べければ也。

淨極まりて、光通達す。

### 第十二則

○學者と、パリサイの人の義よりも、爾曹の義こと勝らざば、必ず天國に入ること能はじ。

智者行者以上入神。

### 第十三則

○凡そ、婦を見て色情を起す者は、中心す  
でに姦淫したる也。

心中に賊起る。

### 第十四則

○天に在す爾曹の父の完全さが如く、爾曹も完全くすべし。  
神人一體。

### 第十五則

○爾國を臨らせ給へ、爾旨の天に成るごとく、地にも成せ給へ。  
靈性の聲。

第十六則

○身の光は目なり、若、なんぢの目瞭かならば、全身も亦明なるべし。  
目の光は靈也。

第十七則

○野の百合花は如何して長きかを思へ。  
梧桐一葉包宇宙。

第十八則

○ソロモンの榮華の極の時だにも、其装  
ひこの花の一に及ばざりき。

人意の極、終に  
神意に及ばず。

第十九則

○己の目に梁木のあるに如何で兄弟に  
向ひて爾が目にある物屑を我に取ら  
せよと曰ことを得んや偽善者よ先己  
の目より梁木をとれ。然れば兄弟の目  
より物屑を取得るやう明かに見べし。

自覺覺他覺業圓滿。

第二十則

○求めよ、然れば與へられ、尋よ、然ればあ  
ひ門を叩けよ、然れば開かるゝことを  
得ん。

撞けば鳴る。

第二十一則

○凡て人に爲られんと欲することは、爾  
曹また人にも其ごとく爲せよ。

一切衆生我也。



第二十二則

○善樹は善果を結び、悪樹は悪果を結べり。

因果應報。

第二十三則

○我を召て主よ主よと曰ふもの、盡く天國に入に非ず、唯これに入者は、我天に在ます父の旨に遵ふ者のみなり。

坐禪する者盡く悟るに非ず、唯見性成佛。

### 第二十四則

○康強なる者は醫者の助を需めず。  
迷ふて悟る。

### 第二十五則

○爾の信仰、なんぢを愈せり。  
透徹。

### 第二十六則

○如何にを言はんと思ひ煩らふ勿れ、其  
とき言ふべき事は爾曹に賜るべし、是  
なんぢら自の言に非ず、爾曹の父の靈  
その衷に在て言ふなり。  
茨開いて豆墜つ。

## 第二十七則

○我よりも父母を愛む者は、我に協ざる者なり、我よりも子女を愛む者は、我に協ざる者なり。

我如來也。

## 第二十八則

○それ有る者は與へられてなほ餘あり、無有者はその有る物をも奪るゝ也、彼等は視ても見ず、聽ても聽かず、悟ざるが故に、我譬を以て彼等に語れり。

本來具有。

常住不滅。

第二十九則

○おそらくは、爾曹稗子を抜きあつめんとて、麥をも共に抜くべし。

煩惱と共に菩提をまでも、はらひ退く、呵々。

第三十則

○若、めしひのもの、瞽者の相せば、二人とも溝に落べし。

アハ……………

## 第三十一則

○我に従はんと希ふ者は、己を棄て、その十字架を負て我に従へ。

大死一番、我を捨て、我に従へ、喝。

## 第三十二則

○もし人、全世界を得とも、其生命を失は

ゞ何の益あらん乎。

靈を離れて一物なし。

第三十三則

○もし改まりて嬰兒の如くならずば、天國に入ることを得じ。

無念。

第三十四則

○是人には能はざる所なり、然れども神には能はざる所なし。

三昧に入れば、事として成らざるなし。

## 第三十五則

○噫、なんぢら禍なるかな、偽善なる學者と、パリサイの人よ、蓋なんぢら天國を人の前に閉ぢて自ら入らず、且いらんとする者の入るをも許さざれば也。咄、何者の痴漢ぞ、明鏡に塵を積み、止水に波を起す。

## 第三十六則

○我より勝れる者わが後に來らん、我は屈して其履の紐を解にも足ず、我は水をもて爾曹にバプテスマを施ししが、彼は聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし。

靈性發揮、是宗教之眞髓也。

第三十七則

○靈たゞちに、イエスを野に往かしむ。  
自ら動く。

第三十八則

○わが來りしは義人を召すために非ず、  
罪ある人を召して悔改めさせんが爲  
なり。  
光は暗に照る。



## 第三十九則

○安息日は人の爲に設けられたる者に  
して、人は安息日の爲に設けられたる  
者に非ず。

宗教は人の爲に設けられたる者に  
して人は宗教の爲に設けられたる  
者に非ず。

## 第四十則

○聖靈を瀆す者は、限りなく赦さる可  
からず。

聖靈を清むる者は、限りなく赦さる  
可し。

## 第四十一則

○それ、神の旨に従ふ者は、是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり。  
唯一即萬有。

## 第四十二則

○耳ありて、聽こゆる者は聽くべし。  
目ありて、見ゆる者は見るべし。

第四十三則

○是かれら視るとき視ても見えず、聴とき聴ても聴らず、心を改めて其罪の赦しを得ざらん爲なり。  
鏡も曇りては物の影うつらず。

第四十四則

○サタンよ、我後に退け、爾は神の情を思はず、反て人の情を思ふ。  
アハ……..  
上の字を、下からのぞいて、下と讀んだ。

第四十五則

○此族は祈禱と斷食に非れば、逐出す  
こと能はざる也。  
方便。

第四十六則

○われを接る者は、即ち我を接るに非ず、  
我を遣し、者を接るなり。  
天上天下、唯我獨尊。

## 第四十七則

○二人のもの一體と成るべし、然れば二  
には非ず一體なり。

無二無三の道直し。

## 第四十八則

○孩提を我に來たせよ、彼等を禁ずる勿  
れ、神の國に居るものは、斯の如き者な  
り。

人間以上。

第四十九則

○凡そ孩提の如くに、神の國を承ざる者は、之に入ることを得ざる也。  
無心。

第五十則

○爾曹のうち首たらんと欲ふ者は、凡の人の僕とならん、蓋、人の子の來るも、人を役ふ爲に非ず、反て人に役はれ、且おほくの人に代り、その命を與へて贖とならん爲なり。  
人形。

### 第五十一則

○凡そ祈禱の時、その求ふ所のものは、必ず得べしと信ぜば、必ず得べし。  
如意。

### 第五十二則

○ヨハネのバプテスマは、天よりか、人よりか、我に答へよ。  
水のバプテスマ以上、聖靈のバプテスマあり。

第五十三則

○それ、死より甦る時は娶らず、嫁かず、天  
にある使者等の如し。

靈

第五十四則

○神は死せし者の神に非ず、生ける者の  
神なり。

即 神。



## 第五十五則

○また心を盡し、智慧を盡し、精神を盡し、力を盡して之を愛し、又おのれの如く隣を愛するは、諸の燔祭と、禮物よりも愈なり。

盡其心者見其性也。

見其性則得天矣。

## 第五十六則

○神の國は顯れて來るものに非ず、此に視よ、彼に視よと、人の言ふべき者にも非ず、夫神の國は爾曹の衷に在り。  
性。

## 第五十七則

○太初に道あり、道は神と偕にあり、道は  
 即ち神なり、萬物これに由て造らる、造  
 られたる者に、一として之に由らで造  
 られしは無し。

一切衆生悉有佛性。

## 第五十八則

○神の遣はし給へる、ヨハネと云ふ者あ  
 り。

神の遣し給へる、常子と云ふ者あり。

## 第五十九則

○彼は光に非ず、光に就て證を作さん爲  
に來れり。

來りしは即光也。

## 第六十則

○斯る人は血脈に由るに非ず、情慾に由  
るに非ず、人の意に由るに非ず、唯神に  
由て生れし也。

眞道。

## 第六十一則

○それ、道、肉體と成て我儕の間に寄れり、  
我儕その榮を見るに、實に父の生みたまへる獨子の榮にして恩寵と眞理にて充てり。  
人にして、人にあらず。

## 第六十二則

○律法はモーゼに由りて傳はり、恩寵と眞理は、イエス、キリストに由りて來れり。

人の作りし規則以上。

柳は綠、花は紅。

## 第六十三則

○人もし新に生ずば、神の國を見ること  
能はじ。

この一身を打破し盡して、本來の面  
目を見る。

春は花咲き、秋は月冴ゆ。

## 第六十四則

○肉に由りて生るゝ者は肉なり、靈に由  
りて生るゝ者は靈なり。

因果一如。

## 第六十五則

○神の其子を世に遣はし給へるは、世を  
審判んとに非ず、彼に由りて世を救は  
んが爲なり。

神は愛なり、即ち慈悲。

## 第六十六則

○地より出づる者は地に屬す、その言ふ  
ところも地の事なり。

靈は靈也。

### 第六十七則

○凡て此水を飲む者はまた渴かん、然ども我あたふる水を飲む者は永遠かわく事なし、且わが與ふる水は其中にて泉となりて湧出で、永生に至るべし。  
飲まずして飲む、美妙の水。

### 第六十八則

○神は靈なれば拜する者もまた靈と眞をもて之を拜すべき也。  
則ち通ず。

第六十九則

○我を遺し、者の旨に随ひ其工を成り  
畢る是れわが糧なり。  
生れて居る所以。

第七十則

○我わが意を行ふとを求めず、我を遺し  
父の意を行ふことを求むればなり。  
無我真我。



第七十一則

○我は生命のパンなり。  
性也。神也。

第七十二則

○我は彼より出、彼は我を生みしゝ者な  
れば也。

我即彼

彼即我。

第七十三則

○己に由て言ふ者は己の榮を求むるなり。己を遺しし者の榮を求むる者は眞なり、其表に不義なし。  
本を現はす即ち眞也。

第七十四則

○活ける水、川の如くに流れ出づべし、如此いへるは彼を信ずる者の受けんとする靈を捐つるなり。  
無限の性。

第七十五則

○我は世の光なり、我に従ふ者は暗中を行かず、生の光を得るなり。

外相に於て求むれば部類を經と雖も終に成る能はず、内覺に於て觀ずれば、一念項の如きも即菩提を證す。

第七十六則

○我もし審判は、我審判は眞なり蓋われ獨あるに非ず。我を遺し、父と共に在ればなり。

活眼大圓鏡智。

第七十七則

○若、われを譏りたるならば、我父をも譏りたるならん。

同物同體即唯一。

第七十八則

○我を遺し、者我と共にあり父は我を獨遺したまはず、蓋われ恒に彼の心に適ふ事を行へばなり。

心即神。

## 第七十九則

○我はアブラハムの有ざりし先より在る者なり。  
不生不滅。

## 第八十則

○人もし、我道を守らば窮りなく、死を見ざるべし。  
死もなく生もなし。

## 第八十二則

○我と父とは一なり。  
此身即ち佛なり。

## 第八十一則

○我は門なり、若人われより入らば、救は  
れ且、出入をなして草を得べし。  
衆生の外に佛なし。

第八十三則

○我は復生なり、生命なり、我を信ずる者は死するとも生るべし。凡て生れて我を信ずる者は、永遠も死ぬることなし。神なれば也。

第八十四則

○我を信ずる者は、我を信ずるに非ず我を遣し、者を信ずるなり。我は我を遣し、者也。

第八十五則

○われを見し者は我を遣し、者を見るなり。

直指人心見性成佛。

第八十六則

○神を信じ、亦、われを信ずべし。  
圓 滿。

第八十七則

○我をる所に爾曹をも居らしめんとて也。  
無差別平等。

第八十八則

○我は途なり、真なり、生命なり。  
應無所住而生其心。



第八十九則

○人もし我に由らざれば父の所に往く  
こと能はず。  
水を離れて氷なし。

第九十則

○我を見し者は父を見しなり。  
我則父也。

第九十一則

○われ父にをり父の我に在ことを信ぜ  
ざる乎、われ爾曹に語りし言は、自ら語  
りしに非ず、我にをる父その行をなせ  
る也。

自性清淨即佛性。

第九十二則

○爾曹われ吾父に在り、なんぢら我に在  
り、われ爾曹に在ることを知べし。  
ムツ。

### 第九十三則

○もし爾曹われを離るゝ時は何事をも  
行ふ能ざれば也、人もし我に居らざれ  
ば離れたる枝の如く外に棄てられて  
枯るゝなり。

我は生命也。

### 第九十四則

○われ訓慰師を父より遣らん、即ち父よ  
り出づる真理の靈なり。  
我釋迦、達磨、一心同體。

第九十五則

○凡て父の有し給ふものは我屬なり。  
我は父なれば也。

第九十六則

○われ父より出て世に臨たれり、復世を  
離れて父に往かん。  
出でしにあらず。  
離るゝにあらず。

第九十七則

○永生とは唯、獨の眞神なり、爾と其遣し  
、イエスキリストをしる是れなり。  
當所即蓮華國。

第九十八則

○我國は、此世の國ならざる也、  
眞。

第九十九則

○我屬は、爾の屬、なんぢの屬は、我屬なり。  
無。

### 第百則

○此書を録せるは、爾曹をしてイエスの神の子キリストなる事を信ぜしめ、之を信じ、其名に因つて生命を得させんが爲なり。

修多羅の教は月を指す指の如し。

「禪海之一波」終

明治三十八年七月廿八日印刷  
明治三十八年七月卅一日發行

（定價拾錢）

編輯兼發行者 清水金右衛門

印刷者 三島宇一郎



發行所

（東京市本郷區本郷四丁目  
電話下谷二〇二九番）

文明堂

# 本書の内容

## ●發兌元

○教行信證 六卷  
 ○淨土和信 一卷  
 ○尊號眞像銘 一卷  
 ○御消息集 一卷  
 ○改邪類聚 一卷  
 ○淨土類聚 一卷  
 ○高僧和意 一卷  
 ○唯信鈔文 一卷  
 ○往還廻回文 一卷  
 ○執持類 二卷

東京本郷四丁目

# ●親鸞聖人全集

文學博士 南條文雄先生  
 文學博士 前田慧雲先生  
 文學博士 村上專精先生

監修

# 文明堂

○愚正像 二卷  
 ○未燈和 一卷  
 ○歎異鈔 一卷  
 ○辭出御書 一卷  
 ○入山二門 一卷  
 ○三往生文 一卷  
 ○一經往生文 一卷  
 ○口念多念證 一卷

●特製貳圓五拾錢  
 ●四六形一拾頁  
 ●並製壹圓五拾錢  
 ●郵送料拾六錢  
 ●紙質印刷特撰





文學士 高瀬武次郎先生著

第四版 出來

# 王陽明詳傳

菊三百八十頁

正價金七十五錢

郵税金十錢

本書は王陽明の事蹟性行學説を、最も詳密に、最も平易に述べたるもの也。陽明は文武兼備の豪傑、武功長く青史を照らし、文勳遠く東亞に傳ふ。其傳記は變化に次ぐに變化を以てし、成功に繼ぐに成功を以てし、曲折千萬、趣味津々、一として吾人の龜鑑たらざるはなし。其學説は簡易直截、實用活躍、入ること易くして入れば必ず得る所あり。其の主眼とする所は良心の光明を發揮し知行をして合一ならしむるに在り。其傳其學、一種凜平たる活氣を帯び、最も精神を奮起せしむるに力あり、是を以て世人遂に精神修養と人物養成を以て明陽學の特長と爲すに至れり、故に今古陽明學に入る者赫々の偉功を立てざる者希なり、世の有爲の士須らく來て陽明が成功の歴史を緋々簡易實用の學を味ふべし。

## 發行所

東京市本郷區四丁目

文明堂

文學博士 井上哲次郎先生校閱並序文  
文學士 遠藤 隆吉先生序文  
文學士 蜷川龍夫先生著

## 新版

# 孔子傳

▲口繪聖像▲菊版三百頁  
▲紙質精撰印刷鮮明  
▲上製金八十錢郵稅十錢  
▲並製金六十錢郵稅十錢

孔子は世界の**大聖**にして其人格の偉大なる其學説の**濶奥**なる其感化の**悠遠**なる**釋迦**。基督と對して世界の**二聖**と稱すべきな**古來**此大聖の傳記は神怪臆懼として**人格の修養**と稱すべき**其哲學の眞髓**を窺ふに足る**著者茲に感**り**多年研究**の結果遂に此大聖となる筆鋒鋭利、正なる大聖偉人の傳記を詳悉するを得べく更らに**東洋哲學の精髓**を詳知すべし**競**愛讀べく又其高風に接するを得べく更らに**東洋哲學の精髓**を詳知すべし**競**愛讀を賜らんことを乞ふ

發兌元

東京本郷四丁目

文明堂

侯爵山縣有朋君題字 男爵園田安賢君序文  
伯爵松方正義君序文 安田善次郎君序文

金森通倫著

# 貯金のすゝめ

三十一版

四號總かな  
四六三頁  
定價金二十八錢  
郵税金六錢

本書は發行以來非常の好評を博し大藏省、逓信省、東京府、北海道廳、熊本、宮崎、奈良、宮城、諸縣廳を始め、**全國各府**縣より御買上を蒙りしは既に**三萬八千部**に達す又印刷局、三井鑛山會社、**各銀行諸會社**より既に**四萬六千部**餘の御注文を等々**各銀行諸會社**に既に**四萬六千部**餘の御注文を始め、**出版界の一大名譽**とす

## 發兌元

東京本郷

## 文明堂

トルストイ伯著  
加藤直士先生譯

(好評第六版出來)

# 我宗教

トルストイ伯肖像  
菊三百三十頁餘  
價金七十五錢  
郵税金拾錢

## 露國先帝

亞歷山第三世此書の原稿を閲し一日伯を召して曰く、朕甚だ卿の説に服す唯夫れ幸に

## 非戰

## 論三頁を削除

せよと。翁毅然として答へて曰く、臣若し此書の

## 一頁を没す可く全

## 卷之を書ける臣の

## 雙腕

を斷つあるのみ、陛下幸に之を察せよと。此書や實に翁の

## 生命也

## 眞髓也骨子也

尤然たる翁が無数の著述は一に

## 此書

の主旨を布演すの者のみ、翁が

## 生觀宗教觀社會

觀其

## 實行主義禁慾主義

## 文明論非

## 戰論

等活如として卷中に眞に是れ翁が

## 心血を披瀝

せるの名著也。

米國ペーグマン氏著  
文明堂編輯局譯

▲質疑應答數件を附録とす。

増補第十三版

説明寫真數葉

價三十錢 郵稅四錢

# 強 肺 術

肺病を恐るゝ者は讀め、肺病に罹れる者は讀め歐米に於ける最新式體力養成法を讀め此書に四つの特色あり。

- 第一 費用を要せざること
- 第二 時間を要せざること
- 第三 場所を要せざること
- 第四 勞力を要せざること

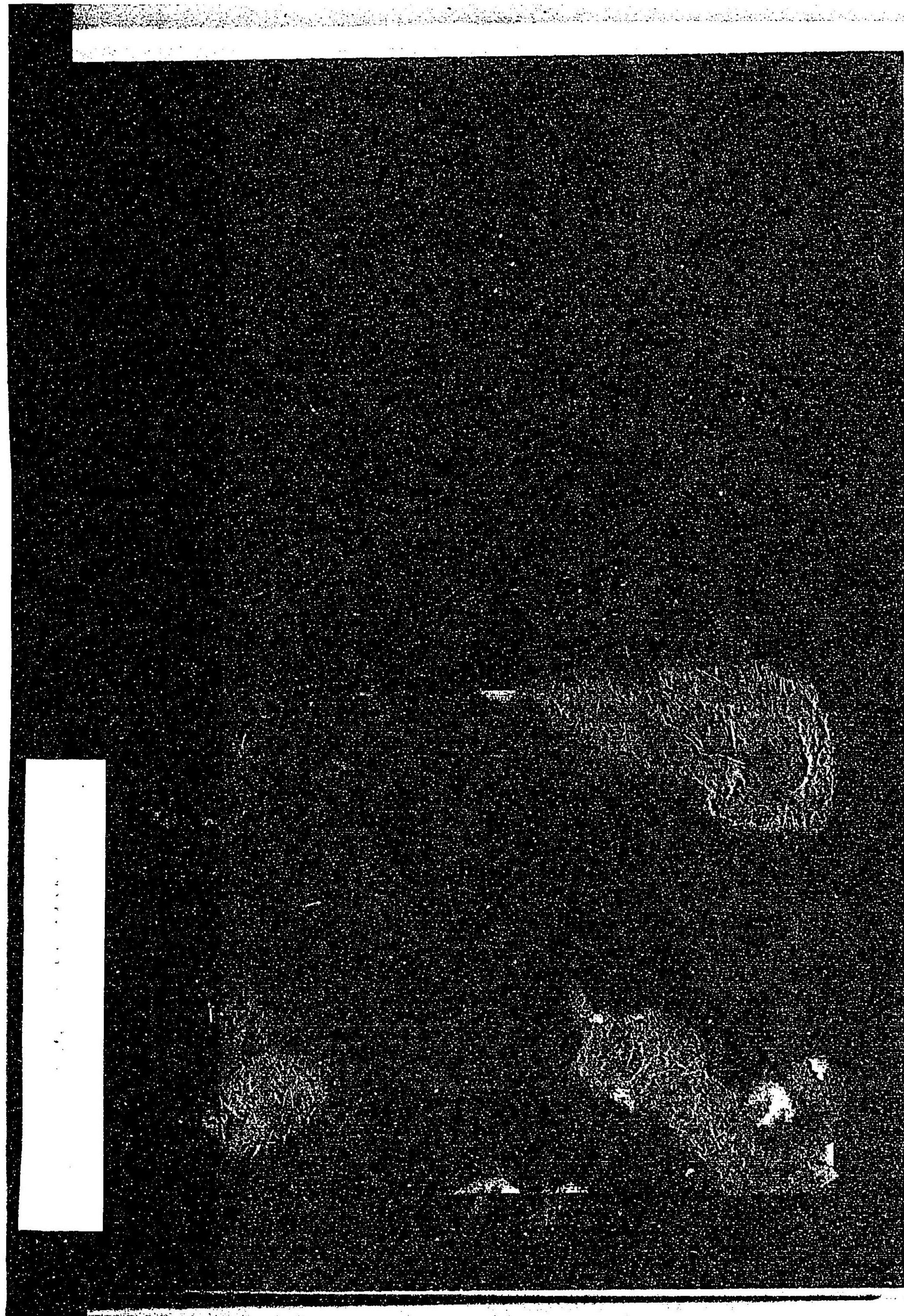
是なり故へに男子は勿論婦人小兒と云へども容易に行ひ得べし

本書は米國に於て已二に十版を重ね其の發賣高は二十五萬部に達したりと云ふ以て其の功確實なるを知るべし

## 注意

第十四版よりは訂正大増補を加へ。四六版總四號に組み更へ定價四十錢と改正す





特 61

87

禅海の一浪

空水

国立国会図書館

019583-000-5

特61-87

禅海之一波

空水/著

M38.7

ABG-0357

